

2021年度自然史学会連合総会 議事録

2022年1月10日(月・祝) 14:30-16:50 Zoom会議

1. 代表挨拶
2. 総会成立の確認(規定により38団体数の2/3=26以上で成立)

37団体+委任状1(計38団体)で総会成立

3. 次期代表選挙【資料1】

加盟学協会から推薦はなく、運営委員会から現代表の大路樹生氏が推薦された。信任投票によって38票(うち委任票1)を獲得して再任された。

4. 議長選出

日本ベントス学会 石田惣氏が選出された。

5. 議事

報告事項

(1) 加盟団体の現状:2022年1月10日現在(説明者:保坂)

・加盟学協会(38団体)【資料2】、運営委員・役員一覧【資料3】

各加盟学協会に、担当者連絡先(個人アドレス)に加えて可能であれば事務局相当のメールアドレスの登録をお願いします。

(2) 運営委員会の開催(説明者:保坂)【資料4】

第一回(5月20日)、第二回(7月16日)、第三回(1月10日)にオンライン運営委員会を行った。議題は資料4のとおり。3月中旬に第四回を予定している。

(3) 講演会の開催(説明者:保坂)

2021年12月に静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアムで開催を計画していたが、コロナ感染状況の悪化により開催館から中止の希望があったため、2021年度の講演会は開催しなかった。

(4) 博物館部会の運営(説明者:斎木)

コロナ禍により活動は行えなかった。

(5) 連合HPの運営(説明者:藤田)

連合で後援したシンポジウム情報のほか、公募情報等を適宜発信した。

(6) 生物科学学会連合 第23回定例会議 (説明者:藤田)【資料5】【参考資料A】

(6-2) 生物科学学会連合 第24回定例会議 (説明者:大路)

オブザーバー参加した生科連定例会議にて、生物学重要用語の入試における使用状況、沖縄県による国立自然史博物館誘致状況、DORAへの署名等に関する報告があったので情報共有した。

(7) シンポジウム後援について(説明者:藤井)【資料6】

連合として後援したシンポジウム2件について報告された。

(8) 博物館法改正について(説明者:斎木)【参考資料B】【参考資料B-2】

博物法の改正に対し、自然史学会連合としてアクションを起こす必要性が議論された。運営委員会および博物館部会が中心となり、情報収集を進め、各加盟学協会に情報共有、意見集約しながら具体案を検討する方針となった。

(9) その他

- ・DORAの署名状況に関する補足情報が共有された(地衣類研究会)
- ・博物館法改定に関する提案と質問がされた(日本昆虫学会)

審議事項

(1) 2020年度決算報告(説明者:保坂)【資料7】

2020年度決算報告について資料7のとおりで承認された。

(2) 2020年度会計監査報告(説明者:会計監査 宮脇・大木)【資料7】

2020年度会計監査の結果、適正であったことが報告され、承認された。

(3) 2021年度会計経過報告(説明者:保坂)【資料8】

2021年度会計の経過について資料8のとおり報告され、承認された。

(4) 2022年度事業案・予算案

- ・運営体制、会計監査(説明者:保坂)

運営委員は現状の体制(代表指名で数名を追加する)が継続する。

会計監査は東京地学協会、日本遺伝学会が担当。

・運営委員会の開催(説明者:保坂)

年間4回程度(オンライン、対面含む)の開催を予定している。

・博物館部会の開催(説明者:齋木)

例年通り、運営委員会に合わせて4回程度を予定している。

・講演会の開催(説明者:佐々木)

長崎市恐竜博物館(2021年10月末に開館)にて対面で開催予定。日程を含む詳細は今後調整する。

・HPの運営(説明者:藤田)

例年通りの運営を予定している。

・2022年度予算案(説明者:海老原)【資料8】

資料8の予算案が提案された。2021年度の講演会中止などにより繰越金が多く発生したため、2022年度限定で分担金を徴収しないこととする。その他、例年通りの使途を積算している。

以上の事業案・予算案について承認された。

(5) 連合への新規加盟団体(説明者:齋木)【資料1、9、10】

千葉県生物学会の新規加盟が審議され、承認された。

(6) 次年度以降の総会開催時期について(説明者:藤井)

総会について開催形式、時期の見直しについて提案、見直しを検討する方針となった。

(7) その他

博物館法改正に対する連合のアクションについて追加の議論が行われた。